

美術作家が見た美術館

美術作家とその作品を
評価する力をもつ美術館。
美術館の価値形成の作業を
検証するとき、
どのような意義が
あらわれるのだろうか。

白川 昌生 (しらかわ よしお)
前橋文化服装専門学校教諭

価値を正統化する権威的場

今日の美術作家にとって美術館はどのようなものとして見えているのか考えてみたい。このことは逆に美術作家がその制度内でどういう位置を占めているかを浮きあがらせてみる。これまでの近代的制度のなかでは、美術館と美術作家はときに対立し、ときに共犯してゆく相関関係を形成してきた。それは美術作品の価値を公的に承認し、正統化してゆく力学的場所——勝者、敗者をきめる政治アリーナの場所として美術館の

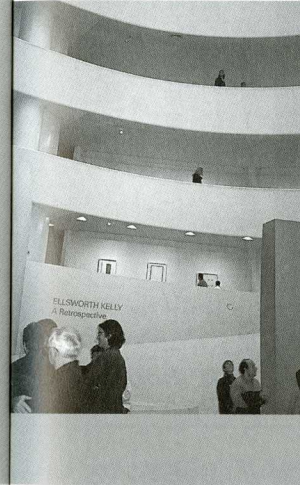
にとって、公的な承認をえるチャンスは限りなくゼロになる。さらにそのことと美術作品をめぐる市場での作家、作品評価は深く連動しているため、ルートから外れている作家たちは、限りなく市場からも排除され続けてゆくことになる。ルートにのって成功をおさめた作家の多くは、今日、美術系大学の教員におさまっていることが多く、画廊、美術館、大学といった価値の再生産市場のなかに安定して存在し続け、権威となることが社会的な通例でもある。

さらに、作家をとりまわっている美術市場——商業市場と象徴市場の両領域にわたって、排除された作家はほとんどそのいずれの市場からも排除されてゆく可能性が高くなり、市場に投入された作家は世代、流行での交代が生じるまでは両領域内で流通されていく力をもつことになる。このことが美術館ならびに研究者そして美術史に与えるあるいは与えられる影響は決定的なものとなる。この状況をコレクターやまた新しく市場に参入しようとする関係者、若い無名の作家たちは見ながら、追従する表現様式、作風、作品を選択してゆく流れが形成されるのである。

細部にわたって美術館の価値形成の作業を展覧会において見るならば、展示の仕方や他の作品との関係のつけ方等々からはじまり、カタログにおける言説、写真の扱いに到るまでその選別作業は浸透してゆくことになる。複数の画廊とも取り引き関係のある美術館では、扱う作家の傾向、関係画廊等々のつながりも無視できないだろう。ミュージアムショップに並べられるグッズ、書籍、カタログ等にもこの作業は無縁ではない。さらには二四時間アクセスできる美術館のホームページ



グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク)



ルーブル美術館 (パリ)

大英博物館 グレートコート (ロンドン)



ロスアンジェルス現代美術館

役割が重要な位置をもっていることから理解されるだろう。近代美術は美術史という自らを正統化する言説場を作り出すことよって、そのなかに自らを織り込んで自らの物語を普遍的なもの、正統的なものとして社会に提示する制度を再生産してきた。

このことはヨーロッパ近代美術の出発点で、ナポレオンが実践したように国家と美術、美術館、感性教育そしてナショナリズムの育成という国家的政治プロジェクトのなかで構築されてきたものであり、日本は明治以来そのシステムを定着させようとしてきた。また美術サロンと評論家、美術作家、画商をまとめあげる焦点のひとつとして美術館が大きく姿をあらわしたのも歴史的事実である。美術館はこのように美術価値を正統化、歴史化、社会化する権威的場として絶対的な力を作家に対してもっているものであり、その関係は非対照的なものである。

具体的には、美術館での展覧会に選ばれる作家がいるということ、選ばれなかつた作家がいるということであり、その選別の基準は作家側ではなく美術館、学芸員側がもっているということである。今日のようなグローバルにして、国際的な美術ネットワークができあがってきている状況では、国際展に選出される作家は、画廊→美術館→国際展というルートを一般的に通過して以上、そのルートから外れてしまっている作家

ジャリククのネットワークは、この作業の効果においてさまざまな公衆、分野へ対し波動を引きおこす働きもして来る。

今日の作家はこのような情報システム市場のなかで流通位置づけられていることを考えると、システムから排除されてしまっている作家たちへはサイバルのチャンスはほとんどないに等しいともいえる。重層化、多層化しているネットワークを考えると、マイナーな作家にはまたそれなりのフィールドが存在するが、それがメジャーなフィールドとリンクすることは限りなくゼロに近くなる。

アートによる浄財化

美術館は、そうした価値の再生産市場の一部を形成しているわけであり、また美術館は、特に、これから市場に参入するであろう潜在者、予備軍としての若い世代の人びとの欲望をかきたてる働きもしてゆくのである。格差社会、階層化社会のなかで芸術、スポーツ、芸能が多くの場合、生まれついた階層と結びこえて成功をおさめることのできる数少ない領域であることを考えると、美術館は未知の、未来の世代に対して欲望の再生産をうながす社会的装置として、あるいは教育装置として重要な位置をしめることは否定できない。

六〇年代の読売アンデパンダン展では反芸術的作品なるものが展示され、いずれもそれは展示から排除させられたし、その経験をもとに美術館は新しい展示基準をきめることになった。ついこの数年前も横浜市美術館での展示で、身体障害者の自慰行為をとり入れた映像が展示中止にな

つた。いつものことだが既成の枠組みに異議をとなえる作品を作家は作り出してくるのだが、最近では確信的に美術館の学芸員のなかにはそういう作用に共感し、あえて美術館の既成枠をくずしてゆこうという共犯的なことも生じているのかも知れない。

欧米の美術館では、すでにこのような異議申し立てや、社会的パラダイムの組み換え作業を美術館で展示してゆくことで、公衆へ対する社会的役割をはたしてきているのだが、日本ではバブル以降の長期的不況のなか、保守的傾向が強くなると同時に文化予算の縮小、美術館の法人化等の政策が進み、東京都美術館のような集客効果の高いものが注目され、美術館の格差もすすんできていることがあげられる。

反社会的なメッセージや、イメージを受けとめていく場が日本では縮小しているのではないだろうか。管理、利益効率だけが求められる社会では、いわば非経済的性質をもつ、ときに贈与的な、象徴的なものである芸術行為、作品は、大衆受けする商品にとつてかわられてしまう。つまりルーブル展や大英博などの有名ブランド化される商品≠作品だけがマスメディアとの共犯的なか、流通し社会的認知をえることに突出してゆくばかりなのである。良しにつけ、悪しにつけ六本木ヒルズの美術館がそうであるように、階層化社会のステータスとシンボルとしてアートを独占しつつ、公衆へ公開してゆく権威の場として君臨することになる。M. ウェーバーの分析にしたがうとかつてのプロテスタントの人びとがアメリカでの経済的成功のなかに、浄財として文化活動と入り込んで自らの倫理性を職業とともに正当化し

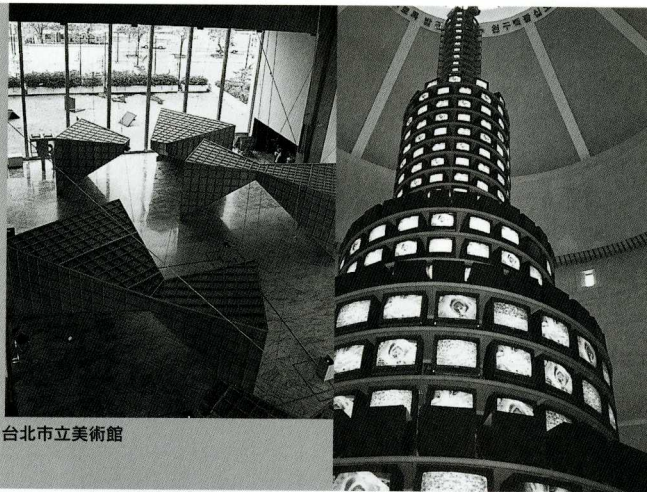
ある。

美術家が、わたしたちの奥深いところに沈み込んでいる不快のなかへ入り込み、それを浮上させ、治療する働きをするならば、これからは美術館は権威的な場であるのではなく、さまざまな公衆へのホスピタリティ的な場でもあらねばならない。

「ある文化において残存するのは、この文化のもっとも抑圧され、もっとも暗く、もっとも遠く、もっとも執拗なものである。ある意味で、もっとも死んでいるものである。…同様に、もっとも生きているものである。というのは、

(撮影/川口幸也)

世田谷美術館(東京)



台北市立美術館

韓国国立
現代美術館
(ソウル)



グラン・パレ(パリ)

たように、森ピルの経済的成功をアートによって浄財化してみせようという倫理的要求をそこに見るのは間違っていないだろう。

ホスピタリティ的な場

美術概念は歴史的、社会的なものであれば、時代、状況、地域、目的等々によつてそれも変化してゆくはずである。概念の多様化を肯定する方向、考えは近代制度批判のなかから生まれてきたのだが、しかしながら美術館という場所は価値の正統化を公認する権力の行使の場所であることはかわっていないように見受けられる。近代美術全盛期ならば、こうした場が唯一絶対的に美術館に集中してしまっていたのだが、ポストモダンの今日ではむしろさまざまな価値、視点の提示、交換の場としての美術館という姿も出てきていることは、多くの作家にとつても喜ばしいことであるし、また観客のニーズと受容における多様化をうながすことも可能になる。

それにしても公的な美術館とその役割は以前にまして、先鋭的な部分への積極的な姿勢が求められるのであり、これはますます強くなってゆくとされる。その理由は、価値の創造的アーリーナとしての美術館がナシヨナリズムや国家の圧力から解放され、公衆、地域に結びついた共有の記憶を創造するためには、美術館は鋭敏なアンテナをはりめぐらし、多くのタイプの美術家との共働作業に入つてゆかなくてはならないからである。さらにこの共有の記憶は過去においていつも抑圧され、忘却させられてきた無意識的記憶をも引きあげ、それを「治療」する効果をもたらすはずだからである。

「残存するイメージ」ジヨルジュ・ティティ＝ユヘルマン 人文書院 竹内孝宏・水野千依訳 二〇〇五年

もっとも動き、もっとも近く、もっとも欲動的だからである」
この、もっとも死んで、もっとも生きているものを公衆に対して公開してゆき、投げかけてゆき、発掘、保存してゆく共働作業の場が、美術館に生まれてくるとき、美術家の役割、位置は単純に市場原理からのみ測られるものでないことが承認されてゆくはずである。